



# 雪花

復刊 76号

# 妙たえの光ひかり

近くの海を暖流が流れるせいで、県内では温暖な土地といわれる。ここ30年余り正月でも積雪はない。花が咲いたように枝に雪が積もるのは、気温の下がる1月末から2月初めの数日。しかも日中に気温が上がるとすぐにベチャとした感じに融けてしまうから、こうした光景が見られるときは少ない。

風もなく冷え込んだ静寂のなか、雪の白と木々の黒のモノトーンの世界で、塔の朱の鮮やかさがひとときわ際立つ。江戸時代の建立当初は外観も内側も総金箔張りだったことが、平成16年の解体修理の際に判明した。

お釈迦様の遺骨を安置するために始まり、やがてその教えを象徴するようになったのが仏塔で、いわばお寺の中心でもある。

松風の奥に寺ある寒さかな 室生犀星

## 行事案内



### お札配り

12月中に地元の檀徒宅に、来年のお札を持ってお経に伺っています。遠方の方には予定日時をお知らせします。県外等の方でお札ご希望の方はお知らせください。

### 除夜の鐘、お焚き上げ

12月31日午後10時30分本堂にて除夜法要。11時40分頃より皆さんで撞く除夜の鐘。大玄関の受付で整理券をお渡しします。除夜の鐘と同時に古いお札、注連縄等のお焚き上げがあります。事前にお持ちの方は祖師堂に受付箱があります。

### 年始参り

1月1日・2日、午前9時～午後4時。年始参りの受付。ご家族おそろいでお参りの方が増えています。ぜひお出かけください。

### 星祭祈願

一年の安泰を個人の星回り別に祈願する星祭。1軒2,000円で、お札をお届けします。新規ご希望の方のみ、ご家族の氏名と生年を書いてお申込みください。継続の方は申込み不要です。

### 厄除け祈願

2月4日(土)5日(日)午前10時 厄払い合同祈願祭  
詳細は別紙で。

### 信行会 ボランテラ休み

月例の信行会、ボランテラは1、2月お休み。  
3月4日信行会、15日ボランテラ。



大災害のあった今年も暮れようとしています。先日、毎日新聞の萩尾記者から、被災地での取材をまとめた『三陸物語』(毎日新聞社刊)が送られてきました。惨状とそこに生きる人々の支えあって生きる姿に、涙で思わず本を閉じてしまうことが度々。失われつつある思いやりの大切さが、再認識された年でもあったように感じます。せめて皆様、心温かい新年をお迎えくださることを祈るばかりです。 小川

# 年末年始よま話

小川英爾



今年も残すところ僅かとなって、ああ、また一つ年を取るのかと思われる方もおいでと思います。以前は正月に年を取る習慣でしたが、最近誕生日に年を取る感覚の方が強くなりました。そのために満年齢の方が主流で、数え年は通用しにくくなっています。個人的なことで恐縮ですが、私は来年還暦の年を迎えるため、いつもと違うやや寂しい思いで新年を迎えそうです。

そもそも正月とは単に年が改まるということだけでない、様々な意味があります。これから迎える年末年始に関わる行事を改めて考えて見ませんか。

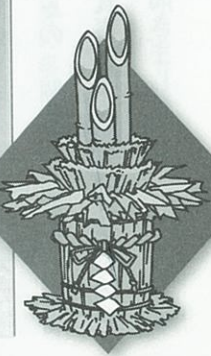
「盆と正月が一緒に来たような」とはとても忙しいことを言います。実はそのお盆と正月は大きくは同じ意味があります。お盆は故人の精霊を迎える仏教の行事ですが、正月も年神さまとって遠いご先祖様の霊をお迎えする、仏教と神道が合わさった行事です。

## すす掃き

ご先祖様が家に戻って来られるわけですから、家をきれいに清めてお迎えしなければなりません。その準備を始めるのが12月8日のすす掃きです。

お盆は精霊棚を作ってご先祖様をお迎えする、そのご先祖様や故人の精霊が頼りにして来るのが位牌ですが、正月は門松を頼りにやって来るというのです。

## 門松



「盆と正月が一緒に来たような」とはとても忙しいことを言います。実はそのお盆と正月は大きくは同じ意味があります。お盆は故人の精霊を迎える仏教の行事ですが、正月も年神さまとって遠いご先祖様の霊をお迎えする、仏教と神道が合わさった行事です。

## 来年のお礼

一番大変なのが台所の大掃除です。往時台所は火を使う神聖な場所として、火の神とされる「三玉荒神」を祀るお札を貼りました。大掃除をしてきれいさっぱりしたところに、新しくお札を貼り替えて新年を迎える準備をします。

日蓮宗では「普賢三玉荒神」を祀る



大玄関に飾られた菊花



信行会での栗拾い



互井ご住職の法話

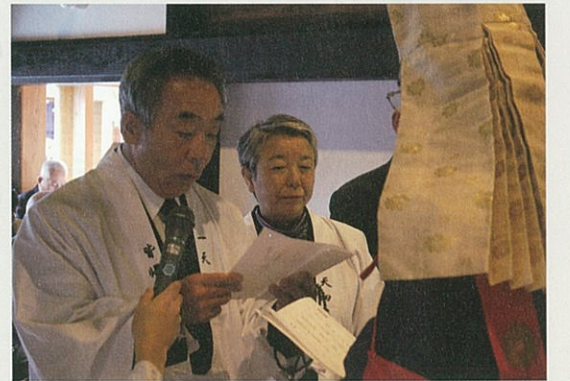


お会式での戒名授与

## お会式・戒名授与



法話に引き込まれた皆さん



代表者の誓いの言葉

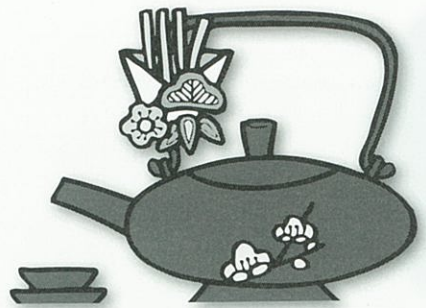


正座のコツから



住職の講義

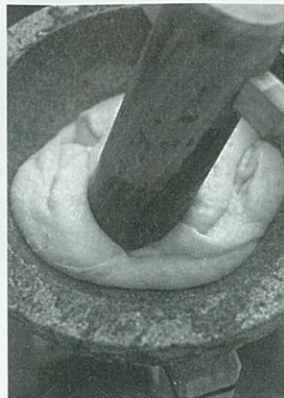
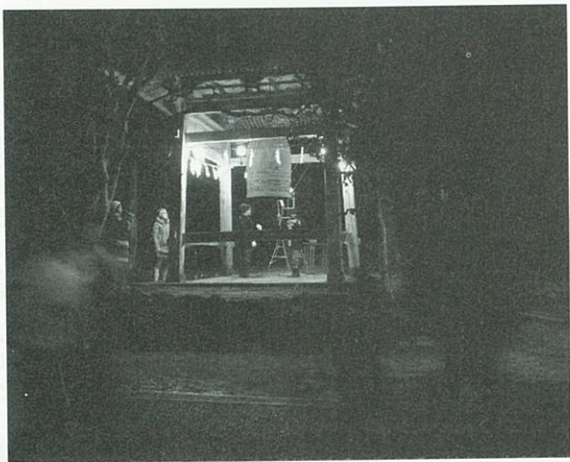
## 一日研修



日付が変わって元旦の朝から正月と誰しもが思います。ある本に「江戸時代は一日の始まりは3つあって、

### 正月はいっから

味では、107つを年内に撞いて108つ目を新年にというのが正式のようです。ただ多くは妙光寺同様に11時半頃から始まって、撞いている最中に新年を迎える寺が大半のようですね。また鐘の数を数える方法も寺によって様々ですが、さて妙光寺では…。



の神として祀るので、妙光寺ではそのお札と、さらに家内のお守り札、そして門口からの魔の侵入を防ぎ、妙光寺の檀徒であることを表す「門札」を、一軒ごとに読経しながら12月にお配りしています。

### 餅つき

餅は特別な食べ物として正月に限らず、節句や上棟式などお祝いの席に出されます。なかでも鏡餅は正月の年神様の召し上がりものとしてお供えされ、福が宿ることを祈りました。

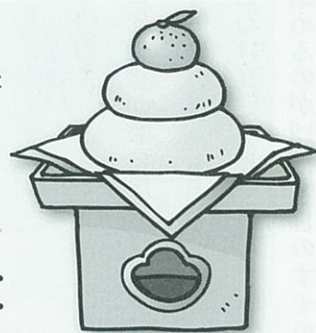
各家で朝からもち米を蒸かす湯気がたち、庭先でベッタンベッタンと杵を振る光景は近年見られなくなっていました。妙光寺でも十数年前までは餅つきをしていて、臼と杵の一式があります。妻のなきさは伯母さん宅が製麺と餅屋だったので、毎年アルパイトに頼まれ、餅を丸める腕は確かです。なのでいつか餅つきを復活したいとたくらんでいます。

天の始まりは午前0時。地の始まりは夕暮れ。人の一日始まりは夜明けから。世界の多くの民族宗教では一日の始まりを夕暮れにおいていて、日本でも同様なので12月31日の夕暮れとともに正月が始まる」とありました。ですから昔は12月31日の夕ご飯が正月のご馳走、正餐なのだそうです。クリスマスもイブの方が賑やかなのも同じことのようにです。

私が子供の頃から31日の夜がご馳走で、一番は鮭の塩引きでした。これを食べないと新しい年を迎えられないと、父に言われた思い出があります。新潟では同様なご家庭も多いことと思います。

以前訪れた韓国で、末期がんの患者さんたちを看取る尼寺で聞いた話です。「明日という日が来ないかもしれない患者さんにとって、夜眠りにつくときが一番不安です。安らかな気持ちで眠れると翌朝爽やかに目覚めることができ、一日が健やかな気持ち

29日は苦餅に、26日はほろくでもないことが起きると縁起をかついで、この日について買ったりはしない習慣がありました。



### お歳暮

正月には本家と呼ばれる家に分家が集まり、一族のご先祖様と一緒に祝い食事をともにしました。これでご先祖様も交えた「同じ釜の飯を食う」仲間の絆を確認したのです。皆で食べるその食材を、暮れにそれぞれ分家から持ち寄ったのがお歳暮の本来的意味だそうです。

近頃は「同じ釜の飯」どころか家族でも別々の「個食」だとか、職場の同僚で食事をする機会もなくなっているとか聞きました。

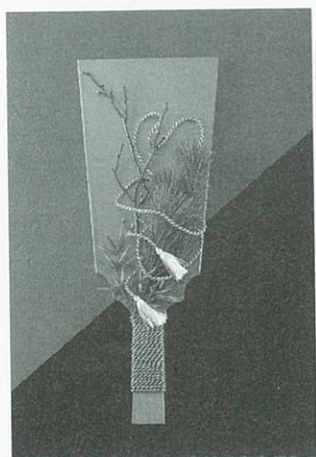
ちです。私たちも同様に一日というのは夜の過ごし方で決まるので、一日は前の晩から始まるのです。「年のせいか近頃不眠症気味な私にも、夜の時間の過ごし方の大切さが改めて実感されます。

### 元旦

元旦は一年の始まりの日。元旦の旦は地平線から昇る朝日を表すことから、元旦の朝のことです。因みに晦日は毎月の月末で、大晦日が12月31日となります。

### 雑煮

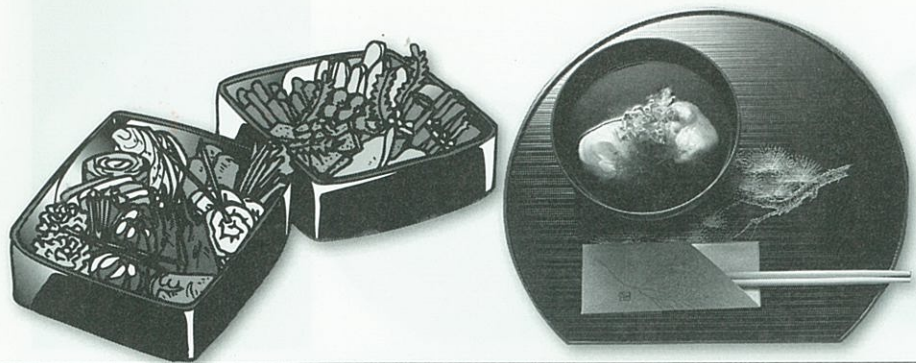
12月31日の正月のご馳走をご先祖様と一緒にいただき、そこにお供え



### 除夜の鐘

108の煩惱（精神を悩ます迷いの心）を打ち消す除夜の鐘ですが、108の根拠は曖昧です。色々な説がありますが、要は沢山ということのようです。妙光寺の鐘は第二次大戦時に没収された後、昭和51年に浄財で再鑄しました。その年から皆さんの手で順に撞いてもらっていますが、34年間皆勤のご夫婦もいます。煩惱を払い新年を迎えるという意





した品を元旦におろしてこった煮にしたものが、文字通り「雑煮」です。雑煮と言えば「餅」ですが、昔は餅より里芋のほうを中心だったようです。妙光寺では「秋奉加」といつて、農家の方々から秋に新米をお供えいただきます。このとき里芋をお供えされるお宅が何軒かあり、その名残と思われる。

### おせち料理

節句に出すお祝いの料理を「お節料理」と呼んだのが、現在は正月だけのものになりました。これを大晦日に食べる風習が残る地域もあるそうで、これは、先に書いた12月31日の夜から正月という考えからです。

保存の効く品が主体なのは、三ガ日主婦を休ませる意味合いが濃いようです。古くは正月から火を使うと台所の神様「三宝荒神」が怒るから。また重箱に詰めるのは、めでたさを重ねるといふ縁起をかついたものと、民俗学では教えます。

### 年始

「本来は氏神社や本家に集まり、そこで年ごもりをして新しい年を迎える儀式であったといわれるが、現在ではもっぱら年頭の回礼を意味している」と辞典にあります。妙光寺では元旦と2日、本堂へのお参りの方をお迎えし、年頭の挨拶を交わしています。不幸のあつたお宅は神社参拝や年始回りを避けるのが一般的ですが、仏教では死を不浄なこととはしていませんので、お寺へはいつも通りに参拝します。「おめでとうございます」とは言いませんが。

### お年玉

子供たちが楽しみにするお年玉です。これは「お年霊」とも書き、正月の年神様のパワーを餅に込めて、本家の主人から分家に配るのが本来でした。それが目上の者から目下の者に与える餅になり、やがて金銭になったそうです。



### 服喪と忌中の期間

服喪とは近親者が亡くなった場合、一定の期間、死を悼み、身を慎むことをいいます。この間、結婚式や賀寿などの祝いの席への参列、神社への参拝、年賀の挨拶、新年の飾りなどを控える習慣があります。始まりは儒教の教えのようです。

服喪の期間は明治7年に当時の政府が法律で決めたもので、現在は廃止されて厳密な決まりはありません。参考までに紹介すると「両親、夫—13ヶ月。父方の祖父母、夫の父母—150日、妻、実子、兄弟姉妹、叔父、叔母、母方の祖父母—90日。

妻の父母—無し」(養父母等は省略)。明治の法律らしく男性優位になっています。というわけですから、自分なりの別れの期間を決めて対応すればいいということなのです。

因みに仏教では、故人の命日から数えて最初の7日目が初七日忌で、7回目が7×7で四十九日忌となり、この期間のことを「忌中」といいます。この後に死者が旅立つから、それまで遺族は冥福を祈り追善の供養を欠かさないと教えます。同時に遺族にとっては心の整理の第一段階の期間ともいえるので、心して過ごしていただきたいものです。もちろんこの期間であってもお寺参りはいけないどころか、大いにお勧めするところなのです。

### 厄払い

厄払いの根拠は定かではありません。しかし一般に言われる男性の25、42、61歳、女性の19、33、61歳はそれぞれに、青春期、中青年への過渡期で社会的にも家庭内でも責任が重



くなり、精神的にも肉体的にも要注の年齢といわれます。そこで「厄年」ならぬ、役割が重くなる「役年」とも言われます。

このときに仏様のご加護を祈り自覚を新たに、事故や怪我、健康管理の面でも細心の注意を払い1年を過ごすことは意味があるといえます。

厄年の年齢は「数え年」であることを忘れないでください。また地域や宗教で年齢が異なる場合が多々あります。妙光寺では別紙で年齢早見表とあわせて、合同厄払い祈願のご案内を同封します。

### まとめ

正月は昔からの習慣が沢山残っていますが、一方でその変化も激しくて混乱しておられる方も多く見られます。その意味を知ったうえで、それぞれのご家庭の事情にあわせた年末年始を過ごしていただければいいかと思えます。

大震災、それにもなう原発事故もあつてまだまだ苦しいお立場の方も数多くおいでです。どうぞ辛いこと、重なつた方も、まあまあ年だった方も、新しい年がひとりひとりの安泰と世界の平和につながる一年であることをお祈りして迎えたいと思います。

(参考資料：ひろさちや著「仏教法話365日大辞典」中村元監修「新仏教語辞典」ウエブ上各HP)



戒名授与の事前研修



参加者からのお手紙

この度は立派な戒名をいただき誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。以後精進に勤めたいと思っております。

式がスムーズに進行いたしましたこと、陰の段取りがどれほど大変なものかお察いたします。

美味しかったお斎の料理に携わった方々、式に参加された地元檀徒の皆様にも心から感謝申し上げます。

これからもご指導下さいますようよろしくお願い申し上げます。(東京都・60代男性)

10月23日、日蓮聖人第730回忌に当たるお会式法要を営み、あわせて生前戒名の授与式を行いました。欠席者も含めて20名が生前戒名を受けられ、合わせて60名余りの方が参列。生

前戒名授与は今年で10年目を迎えて、通算で200名以上の方が受けられました。当番手作りの昼食の後、東京新宿の経王寺・互井ご住職の法話。お会式にあわせて日蓮聖人

の伝記を、わかりやすくソフトな中にも熱のこもった語りで文字通り聞く人たちがすっかり魅了されました。「ぜひまた続きが聞きたい」という声もありました。



当番の方たち

お会式と生前戒名授与

角田山妙光寺インフォメーション 寺の動き

信心 縁に導かれて 新潟市中央区丸山雄さん(74歳) 幸子さん(69歳)

雄さんは両親に伴われて6歳のとき、満州から札幌へ引き上げてきた。大学卒業後新潟県の職員として、主に佐渡で栽培漁業の研究に従事。全国に先駆けてヒラメ稚魚の大量生産技術を開発するなど、漁業資源の保護育成に貢献された。今は山歩きが趣味で、低い山には幸子さんも同行する。

かつて北海道で動物王国を主催したムツゴロウ先生という作家がいたが、動物好きな共通性があるのか、優しさたっぷりの笑顔が良く似ている。幸子さんが開いていた喫茶店の、常連客だったのが縁で結ばれた。4年前に安穩廟を申し込まれた。

雄さんの生家は神道だったが、幸子さんの生家の菩提寺は県内の日蓮宗。安穩廟に縁があってから、幼い頃母親が妙光寺へお参りするのにも何度も連れて来られたことを思い出した。その母親も実家の菩提寺が日蓮宗で、やはり幼い頃から母親に連れられて妙光寺に何度も行ったと聞かされた。

日蓮聖人の霊蹟として妙光寺は昔から県内外の信者のお参りが多い。ことに『ごはんさま』といって、毎年4月に日蓮聖人の遺された御判をご開帳する行事には、数百人の参詣者が列を成した時代もある。幸子さんのお母さん、お祖母ちゃんもそのひとりだったのだろう。

古くからのご縁から親しみを感じ、おふたりは妙光寺への行事参加が頻繁になった。定例の行事の他に、毎月の信行会とボランティアならぬボランテラと呼ぶ作業奉仕、春秋の一日研修会も欠かさず、そのおかげでお経もかなり身につけてきた。本山の身延山、七面山への団体参拝も2回参加し、この秋には揃って生前戒名を受けた。



その幸子さんにこんなでき事があったという。「昨夏私の弟が急死しました。私なりに落胆しきった義妹の力になりたいと思い、49日忌まで毎日通って霊前で習いたてのお経を読ませてもらいました。そしたら義妹から『本当にうれしかった』と泣きながら感謝されたんです。

またこの秋のお彼岸には母の弟で、一昨年亡くなった新潟市西野の加藤さんのお仏壇お参りに行きました。そこで従兄弟が『こんなのが親父の遺品から出てきた』と見せてくれたんです。それは21年前の『妙の光』が第1号からずっと、とても丁寧に綴られたファイル。それにこれまでご住職が紹介された新聞記事の切抜きの数々でした。祖母の影響で、加藤の叔父さんもこちらにずっとお参りしていたなんて、初めて知って本当に驚きました」とのこと。

確かに加藤さんはある年の『ごはんさま』にお参りしたとき、山門で吐血して救急車で搬送された。大変心配したが後日「胃潰瘍でしたが無事退院しました」と妙光寺にお礼に来られた方だった。あれから30年近く、84歳の大往生だったそうだ。

おふたりで「不思議なご縁に導かれて、お参りのたびに気づかされるのがたくさんあります。おかげさまで感謝の気持ちで日々心穏やかに過ごせるようになりました」と笑顔で話してくださいました。

# 身延山団体参拝の旅

10月8日から総本山身延山久遠寺の団体参拝、3日間晴天に恵まれ無事終了できました。県外からの現地合流参加8名を加え、総勢44名の参加で賑やかな旅でした。

1日目、午後到着して久遠寺本堂で法要、広い堂内を案内に従って巡拝。その後身延山大学図書館長の望月先生から「身延山と妙光寺の関わり」についてお話いただきました。夜は宿坊に泊まり、皆さん話が弾みました。

2日目、午前6時のお勤めに参列。宿坊に戻って朝食後、七面山に登る25名は仕度を整え出発。標高2000m近い山上にある「敬慎院」を目指して参道を登ります。午後4時前には全員無事到着、入浴、質素な夕食の後、冷え込む中

で山上の夜の法要は厳かでした。疲れもあって、名物の長い巻き布団に枕を並べて早めの就寝となりました。

登らない方はロープウェイで奥の院、さらに日蓮聖人のお墓に参拝。その後久遠寺から少し離れた実教寺へ。祖師堂でお参りした後、ご住職夫妻の手厚い歓待をいただき、



宿坊の夕食時

見晴らしのいい客間で昼食を取りました。午後は観光の後、宿の甲府・湯村温泉へ。

3日目、七面山では正面に見える富士山からのご来光が、やや雲があつたものの満足できる形で拝めました。昼前には全員が無事下山でき、下部温泉で登らなかつた方たちと合流して汗を流しました。少し豪華な昼食にお酒も入り、すっかり親しくなつて和気あ



七面山の質素な朝食

いあい。帰路は連休で心配した渋滞もなく、夜8時過ぎには新潟に着きました。



【七面山・敬慎院】で下山前に

日蓮聖人の御廟参拝



## 参加者からのお手紙

**総** 本山がどの様なところか、一期一会拝観したい、七面山に登詣りたい思いで、今以上に膝が悲鳴を上げぬうちに、また今年5月、生きたいと願いつつ61歳で逝った姉の後押しもあり、焦る面持ちで参加しました。

荘厳なる身延山久遠寺にて諸堂参拝、七面山敬慎院にての法要等、心身共に“お寺一色”に染まりました。七面山は難儀をして登った分、征服した思いがあり、ご来光遥拝ではお題目を唱えながら拝んでおりましたら、何としたことでしょう、山の端よりまるでお釈迦様のシルエットに後光を放つたようにお出ましになられたではありませんか。実にびっくり仰天！ 不思議なことがあるものだ…。

(新潟市北区・七面山で満60歳を迎えた女性)

**久** 遠寺の階段、4時間に及ぶ往きは登りのみの七面山、どれもが心洗われた清浄さの残る3日間でした。最後にホテルの温泉で汗を流して帰るなど、昔を思うと贅沢な旅を満喫しました。はじめて交わす会話の中に、妙光寺さまを中心に地域が強い絆で結ばれていることを感じ、渴ききった人間関係の中で生活している私には、温もりのある日本の良さを思い知らされました。

亡き主人の写真と杖を持っての参拝登山でしたので、これで心の整理ができました。(埼玉県・60代女性)

## 栗拾い



毎月第一日曜の朝7時から、どなたでも申込み不要で参加できる信行会を開いています。30分の法要の後、運動をかねて境内の清掃をして8時から朝食をご一緒します。

10月は今年境内の栗林の栗が豊作だったので、お参りのあと皆さんで栗拾いをしました。思いがけないことでとても喜ばれ、夢中になって朝食の時間を忘れるほどでした。「美味しい栗だった」と後から言われましたが、平成5年に新潟市西区の故遠藤茂五郎さんから苗木を奉納いただき、手入れをしてここまでになったものです。

## ギンナン拾い



本堂の前に銀杏の老木があって毎年ギンナンが実ります。これを拾い集めて山門の前の沢で皮をむき、天日干しします。毎年の大晦日、除夜の鐘を撞いた方に小袋で差し上げるのですが、今年是不作で、どうにか人数分が確保できてホッとしました。

秋の一日研修

数珠の持ち方から正座のコツ、お経の初歩等々、まったくの初心者から参加できる研修会を春と秋に開いています。この秋は11月13日、20名が参加されました。11名が初めてで、9名が2回目から5回目までの方でした。9時から3時半まで、2班に分かれて講義と実習が交互にあります。また昼食後は全員が



皆さんでいただく昼食

車座になって、日ごろの疑問を住職に質問したりする時間では爆笑したり、終始和やかな一日でした。



参加者の感想

**数** 珠の持ち方、礼拝の仕方等はじめて教えていただき身につけたいと思いました。一日が長いと思っていましたがあっという間に過ぎて楽しい一日でした。

(初参加 新潟市西区・60代男性)

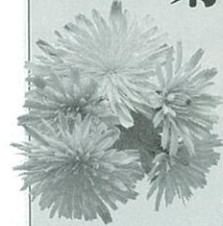
**大** 変楽しく勉強させて頂きました。又、伺いたと思います。意味が解るまではいつのことやら?と思いますが、心が穏やかになります。長い間に間違えて覚えたこと、その意味が解ただけでも良かったと思います。

(初参加 神奈川県・60代女性)

**い** つも初心のつもりで伺っています。それでも少しづつ、あっ前にもお聞きしたとか思えたり、お経にもついていくのが精一杯だったのですが、漢字にも慣れてきたように感じます。参加の皆様にお目にかかれるのも楽しみで、都合のつく限りまた参加させていただきます。

(4回目 新潟市中央区・60代女性)

菊花



秋といえば菊ですが、丹精込めて咲かせた鉢植えの菊花を、今年も内藤清さんと河村一良さんが大玄関に飾って下さいました。ことに内藤さんは夏に大きな手術をされ、今年は無理かと思っていました。「長期の入院で菊が駄目になったかと諦めていたけど、なんとかなりました」と、元気な顔で持ってこられた時は正直驚き、また安心しました。可憐な花が訪れる人の気持ちを和ませてくれます。

あんのんのページ

質問から

秋の一日研修で女性の安穩会員さんからいただいた質問です。

「生家は真言宗でしたが母親だけキリスト教に入信して、亡くなった後は教会の墓地に埋葬されお参りにも行きます。夫の生家は浄土真宗です。私は安穩廟がきっかけで日蓮宗にご縁ができたわけですが、一体自分ほどの宗派を選ぶべきなのか迷っています。」

その回答です。

お母さんのようにご自分で信仰を自由に選ぶのが基本です。そのために色々体験されたらいいのですが、全ての宗教や宗派を調べてから選ぶというのは不可能に近い話です。御自身の中から突き動かすような求めるものがあるなら別ですが、ご縁があつて違和感がないから、そんな選び方もあつていいのではないでしょ

うか。

宗教は本来個人的なものです。ところが江戸時代に作られた檀家制度で、宗教(寺)と家がセットされました。そのため嫁入りした特に女性は、その家の宗教(寺)に決められて個人では選べないことになりました。この制度は明治に入ってから廃止されましたが、いま習慣として残っています。そのような中で家の宗教ではなく、キリスト教を選ばれたお母さんは、よほど強烈な出会いと強い意思があつたと思われま

す)を変えることは誰からもとめられませんが、(古いしきたりや習慣にとらわれる地域や親戚から言われることはあるかもしれませんが)

こうなると信仰は個人的なものですから、夫婦や親子で宗教が異なる場合も起きてきます。カルトと言って狂信的な宗教に子供が勧誘されて入信する例が社会問題になっています。この場合は別として、夫婦家族が同じ信仰を持つことが理想でしょうし、同じでないときは相互に認め合うことが大切です。因みに妙光寺では檀家といわず檀徒といい、子供が後を継ぐことを強要しませんし、入ることも出て行くことも自由です。最近では県外に移り住んだ昔からの檀徒Aさん夫妻が相次いで亡くなり、息子さんのちの事情で墓をそちらの日蓮宗のお



寺に移して妙光寺の檀徒を辞めました。その逆の、新たに檀徒に加わる方がとても多いのも現状の妙光寺です。

宗教に熱心という特別な目で見られがちでしたが、八十八ヶ所巡りが流行ったり、若い人が宗教に関心を持つなど、これからの時代は変わってくると思います。でも昔のままのお寺では難しいでしょうね。親しめる妙光寺を目指していますので、気軽にお付き合ってください。



「頑張るしかないよ! ♪♪!」 小川なぎさ

激動の平成23年が終わろうとしています。東北の震災をはじめ世界中でおきた災害や政変、欧州の経済危機。それによってどれほどの涙が流れたか想像するに余りある大変な一年でした。

家族との死別、病気、失業などの出来事で自分の生活が大きく変わってしまうことも。それはある日突然自分の身に降りかかり、辛く悲しい気持ちの暗闇のなかで、それでも生きて行かなければなりません。絶望の淵から私たちを救うものはいったい何なのでしょう。

どんな国に生まれても、どんな宗教を信仰していても、正直に生きているつもりでも、悪どいことをしても、平等にめぐってくるこれらの苦境。だとしたらなにを目印に進んでいったらよいのか。と考え続けています。

私があることで悩んでいた時、寺務の柿崎さんから「ピンチはチャンスだよ」と言われて(よし!)と思い、普段ご無沙汰している友人が顔を出して笑わせてくれたり、問題の解決は出来なくても、人のぬくもりに救われる事がたくさんありました。プータン国王のお話にも元気をいただきましたよね。これがはじめての治療で、これで治るときは軽傷ですね(笑)

次には反対にとことん孤独な場面に自分を置いて、引きこもって考えつづけるということもあります。

自分に問いかけ答えての繰り返し、包丁をにぎりながら、掃除機をかけながら、一日中考える。これが続くと危ない感じがしますが、仕方ありません。

三つ目に、私を知る人なら怪しいと思うかもしれない話をします。なんの根拠もない、(…かもしれない)という程度の話ですが、私にとっては光明のような感覚を言葉にするだけです。八方ふさがりの場面において、(何かわからないものに救われる)という感じです。それが仏教的な教えが根底の生き方ではないかと思いはじめていることに、自分の人生は自分で決めると頑固に思い続けてきた私にとっての大きな変化です。(運命だと思うこと)(そしていつか救われる)案外効果があるのではないかとおもいます。古い友人との飲み会でチラリとそんな話をしたらみんながギクリとした顔がおもしろくて、どうしてかな? やっぱりこういう場での宗教の話はヤバイですかね。

今年もさまざまな寺の行事において参加して下さった方々、ご協力下さったことに心からお礼を申し上げます。今日はお寺の日!とカッコよく集えるような寺をめざして、来年も頑張ります。

この時期することがたくさんあってくじけそうになると、音楽を聴きます。100パーセント勇気もう信じるしかないよ! 歌手が楽しそうに歌っています。大丈夫! 来年も勇気をだして進んでいきましょう。

身延山・七面山団体参拝旅行



富士山のご来光



久遠寺の五重塔



七面山登頂まえに「お万様の滝」で



本堂内で法要



七面山から下山開始



広い堂内を案内される



下山後全員が合流して安堵の昼食



宿坊での夕食



本堂前で